

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホームまえさわ苑折居館		
所在地	岩手県奥州市前沢区古城字北館21番1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosvoCd=0391500238-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気与生活できる事を心掛けております。利用者も職員も互いに優しい気持ちを持って関わり合っている姿が見られます。利用者への接し方は特に重点を置き、信頼関係を築き、安心して生活していただけるよう努めております。
家事的な作業、行事等は意欲的に参加する利用者が多く、皆で楽しむ雰囲気がとても良好であると感じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念とは別に、4ヶ月ごとにホームの目標を職員全員で考え、前回の反省を踏まえて決めている。今期は、「1. 余暇活動の多様化で、日中の活動を充実」「2. 入居者、職員共に楽しく生活できる環境作り」「3. 個別ケアに積極的に取り組む支援」を掲げて毎日のケアに当たっている。医療連携が良く取られており、服薬見直しにも取り組み、体調管理に効果を上げている。入居者間、職員間の関係は良好で、明るく笑いのあるホームである。ラジオ体操を毎日実施しており、入居者にも浸透している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに事業所としての年間目標を定め、4ヶ月ごとに反省を行い次の目標に向けての対策を立て、実践に活かすようにしております。	法人理念とは別に、ホーム独自の目標(4ヶ月ごと)を職員皆で決め、取り組んでいる。共有して実践に向ける部分が、まだ弱い印象で、申し送りや、職員会議時に振り返り、更なる意識付けを行い、管理者・スタッフ全員で、共有と実践へと繋げ、一層のチームケアの構築の可能性が窺い知れる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭等に参加したり、地区の清掃活動に参加する事で、近隣の方々との交流を図るよう心掛けています。	地域から来ている職員から、自治会の情報を聞き、地域の行事に参加をしている。(お祭り、文化祭等)年一回中学生が来訪して歌で交流をしている。傾聴ボランティア、趣味の会(歌、踊り)との交流もある。今後はアニマルセラピーを取り入れたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献としての取り組みはまだ実践しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、事業所の取り組み等を報告しております。その場で意見やアドバイスをいただくようにしております。また、行事に参加していただく事もあります。	報告が主体の会議であり、委員からの意見等はなかなか出ておらず、苦慮している面もあるが、区の包括センターからの助言を頂き、参考にしている。会議の進行役を交代で行うなど、委員の意見の引き出しをするための工夫などにも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人としては日頃から連絡を取り合っていますが、事業所としては運営推進会議での話し合いの他はあまり連携を取っておりません。	法人が、各事業所の連絡事項をまとめて、奥州市と連絡を取る体制のため、ホームとしては、指導、助言はすべて法人に伝えて、解決に向けている。運営推進会議で、指導を頂くこともある。市主催の研修会、ケアマネ会議には参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在対象となる利用者はいません。また、施錠を行なっている場所もありません。利用者の方々の見守りを重視した対応をしております。	職員が欠員の状態で、見守りで入居者の動向をみている。外出傾向のある方2名いるが、冬場は落ち着いている。ホームの出口の引き戸は音が大きくて、音で確認をしている。安定剤を2名の方が服用していたが、減薬をして、日中は行動できるように改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体での研修会、外部研修への参加を行っています。日頃から利用者の立場に立った対応を心掛け、職員全員で虐待等が発生しないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解については、まだ研修する機会を持っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する説明は行っており、家族からお理解、納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス担当者会議、運営推進会議、家族会等で利用者や家族からの要望を聞き、運営の改善につなげるよう努めております。	家族からは「面会規定(風邪流行時)を緩めて欲しい」との意見があり、居室での面会が出来るように変更した。好みの味付けを希望する家族には、味付けを変えて提供している。入居者とは、入浴時にゆったりとした気持ちの時、会話で聞き出しをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談等により、職員からの意見を求め、運営の改善に反映できるよう取り組んでおります。	施設長と職員の面談を年一回実施している。運営等に関する意見として、職員からは、夜勤回数が多く、職員の補充をして欲しい。洗濯機の故障、トイレの水周り等改善の要望が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況等を把握するようしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に参加できる機会をつくり、より良いケアにつながるよう努めております。また、研修内容は職員で共有できるよう、報告の場を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じて交流を図り、情報交換を行っております。ネットワークづくりにまでは至っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人または家族にアセスメントを行い、要望等を把握するようしております。職員で情報を共有し、安心して生活していただけるよう、統一したケアを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントにより、要望等を把握しケアプランの中に取り入れ、解決に向けた対策を説明したり、不安を軽減する方法を共に検討したりしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、または入所後の様子から、できるだけ早い段階で必要な支援を内容を決め対応できるよう、家族との話し合いや、職員間での情報交換を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事的な作業、行事の準備等、利用者の状態に合わせ、出来る事を一緒に行うようしております。お互いに助け合いながら暮らしているという意識を持って生活できるよう心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族との外出、外泊、通院対応等を行ってもらったり、面会に来ていただけるような声掛けを行ったりし、家族との関わりの機会を増やせるよう働き掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人の方々に気軽に来ていただけるような雰囲気作りに努めております。また、馴染みの場所として、以前から利用していた理髪店を継続して利用したり、買物へ出掛ける等の支援を行っております。	来訪した知人の方には、居室に通して、お茶を出し、ゆっくりと話が出来るような環境を作っている。年賀状、電話の取次ぎで関係を大切に支援している。3～4名の方は、買い物に出かけて、折り紙、毛糸など好きなものを購入して楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好なコミュニケーションを図れるよう、相性を把握し食事の席や活動時の関わり方等に配慮しております。また、難聴の方への支援も行い、会話がつながらぬような工夫をし対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ADLが低下した事により、同法人の特養へ移動入所した方には、利用者との面会に行ったりし、共に暮らした仲間としての関係を継続できるようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望については、常に耳を傾け希望に添えるよう対応しております。意向の把握が困難な方については、家族からの情報や普段の様子等から思いを見出せるよう努めております。	家族から昔の歌が好きだったとの情報があり、歌えなくても、表情が和んでいる。発語が難しい3名の方は、他の入居者のやることを見ながらついてきて、共に楽しんでいる様子が感じられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、面会者からの話し等を聞いたり、本人への傾聴に努める事により、出来るだけ様々な情報を得られるよう心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの状態を把握できるよう、生活記録、申し送り等により情報交換を行っております。また、細かい気づきも伝え合うよう心掛けております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等で一人ひとりに対する課題、対応について話し合いを行っております。また、定期的にモニタリング、サービス担当者会議を行い介護計画を立て、より良いケアにつながるよう努めております。職員会議等で一人ひとりに対する課題、対応について話し合いを行っております。また、定期的にモニタリング、サービス担当者会議を行い介護計画を立て、より良いケアにつながるよう努めております。特に、家族さんからの希望には、ADL(日常生活動作)の状態を維持できるようにとの意見も多いことから、それらの希望に沿った介護計画となり得るよう取り組んでいます。	担当職員とケアマネジャーで、3ヶ月に1回、モニタリングをしている。看護師、家族を交えて、年2回サービス担当者会議を行い、本人・家族の希望を聞いている。家族の希望は、認知症が進まないようにして欲しい、本人の希望の買い物やさせて欲しい、等の意見がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、食事、排泄、入浴、生活の様子を出来るだけ細かく記録し、全職員で共有できるようにし、適切な対応、より良い対応が出来るよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて臨機応変に対応出来るよう心掛けております。通院は家族の都合により、職員が代わって対応する事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、理容組合のボランティアとお話しボランティアを依頼し、利用者の生活に役立てております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、以前からのかかりつけ病院で受診できるように支援しております。職員対応で通院している方については、受診内容に変わった点や報告事項があれば、家族に伝えるようにしております。	在宅時のかかりつけ医に、継続受診している入居者は7名、これまでのかかりつけ医を変更した方2名、通院介助は、家族での対応の方が、3名、ホームでの対応の方が、6名である。医師への情報提供は、電話、通院メモ、家族が口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態、通院の内容等を報告し、相談したりアドバイスを受けながら対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族、医師、ケアワーカー等との話し合いを行い、退院後の生活について検討しております。また、お見舞いに行き、状態を把握するようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合、終末期に入った場合の対応について、家族と確認を取るようしております。	法人で「看取りの指針」が作成されているが、ホームでは行っていない。入居時、重度化についての説明をしているが、同意書は頂いていない。日常生活が自力で困難になった時点で、所長、職員の判断で、病院、他の施設への転居についての助言を行っている。法人の施設以外への転居でも家族の希望を優先している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置等の講習は、全職員が定期的に受講するようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルをもとに、時間帯別に想定した避難訓練、非常召集訓練を実施しております。	避難訓練は、法人全体で実施し、ホーム独自の訓練は行っていない。職員の日勤帯、夜勤帯を想定した訓練で、夜間時の訓練はされていない。近隣住民の方々との協力体制はまだ構築されていない。発電機、食料の備蓄は法人で確保している。	半数の入居者は、非常階段を利用して一階に避難することが出来たが、安全に皆が避難できるような仕組みづくりを期待したい。また、運営推進会議の委員の方々等を通し、地域や近隣へ、災害時の事業所への協力の呼びかけなどを望みたい。地震時の基本的な避難行動の話し合いなども、重ねていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、言葉使遣いや表情、会話の際の姿勢等に丁寧な対応、不快な思いを与えないような対応を心掛けております。	入居者に対応する時には、同じ目線で会話をし、馴れ馴れしい態度は取らないように注意し合っている。着替え、トイレ時の声掛け、手伝いをしていた際には、感謝の言葉を言っている。笑いを誘う言葉掛けをして、周囲の空気を和らげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話は傾聴に努め、希望や思いを聞き出せるようにしております。言葉に出せない方については、表情やしぐさから思いをくみ取れるよう心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、午睡等の時間は一人ひとりのペースに合わせて支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、外出時のおしゃれ等、本人の好みに合わせて支援しております。服選びは、自分で出来る方には選んでもらうようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りを行う事もあります。また、役割を持って準備や片付けを毎日の日課としている利用者もあります。	入居者と職員が同じ食事を食べている。半介助が必要な入居者が1名おり、職員が隣に座り、介助しながら食べている。当日は緊張しているとのことであったが、和やかに、会話をしながら、楽しい雰囲気であった。お手伝いの状況は、調査場所が離れていたため、確認できなかったが、日常は行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取量の把握を行っております。一人ひとりの好みに応じて代替食を提供したり、味付け、飲み物の内容を変えたりして対応しております。また、水分補給は、提供のタイミングを個々に合わせて行うようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて毎食後の口腔ケアを行っております。歯科受診の際、ケアの方法についてアドバイスをもらい、実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録による排泄パターンの把握や、職員間で声を掛け合う事により、出来るだけトイレでの排泄を行えるよう努めております。特に排便については申し送りを重視し、対応しております。	トイレ排泄が基本であるが、布パンツ2名、リハビリパンツ+パット7名で、声掛け誘導も、さりげなく行われている。排便には状況を共有しながら、適切な支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品、乳製品を意識的にメニューに取り入れれたり、水分補給のタイミングを工夫したりしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて入浴できるよう支援しております。入浴回数、入浴時間、入浴温度も個々の好みに合わせて対応しております。入浴時に音楽を流す等の工夫も行っております。	週3回を目安に、遅番職員が入浴の対応をしている。10時半から夕方4時の間に、1人30分くらいずつ入浴している。衣類着脱時は、必ずカーテンを閉めて行い、音楽(草津音頭、真室川音頭)をかけて、温泉気分浸っていたいでいる。入浴拒否がある場合は、時間を掛けて「温泉に行きませんか?」と誘いかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋のベッド、リビングのソファ等、好みの場所で休憩をとっていただいております。午睡をせずにリビングで過ごす方もいるので、それぞれのペースに合った支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明により、注意事項は必ず周知するようにしております。薬の一覧表をその都度確認しながら、確実な服薬介助を行うよう努めております。服薬後の様子観察も十分行うよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、工作、読書、外出等の活動を積極的に行えるよう支援しております。利用者からの要望にも出来るだけ対応するよう心掛けております。また、毎月様々な行事を企画し、実施しております。家事的な作業も、様子を見ながら一緒に行うよう働き掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望があれば、出来るだけすぐ対応するよう努めております。新聞や、広報誌等からの情報を得て、様々なイベントや行事にも出掛けられるよう心掛けております。	地域から入居している方が多いことから、外に出ることを嫌がる方がおり、外出には細心の注意を払っている。地区のお祭り、若い頃、花見に行った北上の展勝地、紅葉等、バスハイクで出かけている。日常は、ベランダでの花や野菜作り、長いすでの日光浴、毎日のラジオ体操で体力維持を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の希望があれば、家族と相談のうえ、財布を所持していただいております。持っているだけで安心する方、買物の際に自分で支払いたい方、それぞれに合わせたお金の使い方を支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、すぐ対応するようしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような装飾を工夫したり、花を飾るなどしております。また、ベランダで花を育て、管理を楽しみながら行っております。	居住が、2階部分であり、土に触れる機会が少ないことから、2階のベランダで野菜を育てて楽しんでいる。共有スペースは、広さに制限があり、ソファが1つある。レクリエーションの道具が沢山置かれてある。事業所の造りを、なんとか家庭に近い雰囲気にしようとする職員の知恵が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、皆で使えるよう配慮しております。リビングでは、それぞれ新聞を読んだり、テレビを観たり、カラオケをしたり楽しく過ごせる場となっております。また、ベランダでは、外を眺めたり、話しをしながら日光浴をするなどしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた椅子や衣装ケース等を持って来ていただき、居心地良く過ごしていただけるようしております。新たに必要となる物は、家族や本人と相談しながらそろえていくようしております。	個人によって差はあるが、椅子、テレビ、衣装箆、ラジオ、タオル掛け、写真と思い出のあるものを持ち込んで、自分の住みやすい部屋作りをしている。目印に名前の部分に、ゆるキャラの「くまモン」を貼っているお部屋もある。掃除が行き届き、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を支援できるよう、環境づくりを行っております。安全に生活できるよう検討をし、必要な場所には手すりを設置するなどし対応しております。		